

2025 年の悪石島における外来種ミナミイシガメの生息実態

嶋津 信彦

しまづ外来魚研究所

<https://shimadzu1984.wixsite.com/gairaihyo>

悪石島は、南西諸島トカラ列島の中頃に位置する火山島である。悪石島のミナミイシガメ *Mauremys mutica* は、外部形態から八重山諸島を自然分布域とする亜種ヤエヤマイシガメ *M. m. kami* に同定されている。昭和初期から記録されているが、悪石島と八重山諸島の間に自然分布が認められないため、外来生物と考えられている。2015 年の調査では、悪石島の本種は、計 6 回設置されたカニ網により雌 93、雄 11、計 104 個体が採集され、シュナーベル法で生息個体数が雌 142、雄 11、計 153 個体と推定された。背甲長は、 128.4 ± 7.8 ($108-156$) mm(平均土標準偏差(最少-最大))であった。悪石島の本種は、生息個体数が少なく、地熱の影響により性比が著しく雌に偏り、また幼体も認められなかつたため、絶滅する可能性が高いと考えられた。

2025 年の調査では、調査地の池が干上がっていたため、9 月 28 日から 10 月 1 日までの主に夜間、計 14 回、各 1 時間半程度、池周辺を踏査し、ミナミイシガメを採集した。採集個体は、その場で背甲長が計測、個体識別のために腹甲の模様が撮影され、放された。今回の調査で本種は、雌 22、雄 4、計 26 個体が採集され、うち雌 2 個体のみが初採集であった。背甲長は、 131.4 ± 7.0 ($121-150$) mm であった。再捕個体の 2015 年との差が最大でも 7 mm であり、ほぼ成長していないことを示唆した。悪石島の本種は、小型個体が再び認められず、2015 年に採集された個体が多くを占めたことから再生産できていない状態であると考えられた。

表 1. 2025 年に悪石島で採集されたミナミイシガメの採集回数と背甲長および環境の 2015 年時との比較

個体識別番号	性	2015年(カニ網6回)			2025年(踏査14回)		
		採集回数	背甲長(mm)	環境	採集回数	背甲長(mm)	環境
3	雌	4	123	池	1	126	林
6	雌	3	120	池	1	123	干上がった池
10	雌	3	131	池	2	136	干上がった池
18	雌	2	134	池	2	135	干上がった池
20	雌	3	133	池	1	133	林
21	雌	4	126	池	2	129	林
25	雌	1	123	池	1	123	林
27	雌	1	128	池	1	133	林
31	雌	1	132	池	1	135	林
40	雌	2	126	池	1	128	干上がった池
55	雌	1	134	池	2	137	林
57	雌	1	133	池	1	137	林
58	雌	3	127	池	2	128	林
69	雌	1	123	池	1	123	林
74	雌	3	118	池	1	121	林
75	雌	2	136	池	1	136	林
76	雌	3	126	池	1	129	林
80	雌	1	127	池	1	134	林
83	雌	1	122	池	1	124	干上がった池
86	雌	1	127	池	1	130	干上がった池
97	雄	3	150	池	1	150	干上がった池
99	雄	6	138	池	1	144	干上がった池
100	雄	3	130	池	3	131	干上がった池
102	雄	3	136	池	2	138	干上がった池
105	雌	0			1	121	干上がった池
106	雌	0			2	133	林